

---

# ちょっとしたこと

石子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ちよつとしたこと

### 【Nコード】

N9187J

### 【作者名】

石子

### 【あらすじ】

短編三話。【窓際の幽霊】幽霊が出ると噂されているのは、窓際のデスクだった。【電話ごしの声】友人からの久々の電話。話題はこの前死んでしまった会社の同僚のことに。【停止エレベーター】急に止まってしまったエレベーターの中での、男二人の会話。

## 窓際の幽霊

あなた達って、まだこの会社に派遣されて数日しか経ってないのよね？

やだ。いいのよ。私だって何週間か前に来たばかりの派遣社員だし。そんな先輩扱いしてくれなくなつて。

三ヶ月更新だから、すぐに別のところに移るかも知れないしね。

こんな大企業だからさ、ここの職場、ほとんど派遣ばかりで肩身が狭い感じはなくて……まあ、働きやすいかな。

あなた達二人も今まで面識なかったんだ？

今日たまたま席が近かっただけ？

そうよね。私も会うのはじめてだもんね。っていうか、すれ違つたことくらいはあるかも？

ここ、人数多いし、入れ替わり激しいからね。このフロアだけでも常時八十人くらいいるんじゃない？ 他の階にも派遣さんいるし、それいたら何百人って人数になるんでしょうね。

もっと小さい会社ならね、派遣社員でも一応「今日からお世話になります」みたいなあいさつして軽く自己紹介とかさせられるけど、こつてそういうのもないでしょ？

知らないうちに知らない人が働いてて、知らないうちにいなくなつてく、みたいな？

人間関係は楽よね。

最初に仕事教えてもらえば後は大体一人でできるし。マニュアル通りにしたらいいだけだもんね。

席だって、パーティションで区切られてるから隣の人としゃべること少ないし。

でも何ヶ月かいると気の合う人とは結構仲良くなったりするみたい。

今みたいに昼休みに休憩室で一緒になったりしてさ。やっぱりグ

ループとかできるのよね。

派遣社員でも長く働いてる人は、派閥っていうの？　そういうのもあるみたいだからその辺はあんまり深入りしない方がいいかもね。ん？　あー。その噂、もう聞いたんだ？

ここ、幽霊が出るって。

私達って、定時になれば帰るじゃない？　残業とかしようと思っても、時給制なのわかってるから社員の人あんまりいい顔しないからね。大したノルマもないし、少しくらい仕事が残っても明日にしたらいいかって感じでしょ。

で、そうになると、一気に人がいなくなるからこっただけ広いフロアがガランとしちゃうのよ。

あなた達はまだ遅くまで残ってたことない？　まあ、私もね、基本的には速攻で帰るからその後の状況とかあんまり知らないんだけど。

社員さんも、ちょうどその時間になると上の階の帳票の処理をしに行っちゃうからこのフロアにはほとんど誰も残ってないわけ。

だから、節電のために照明も一部を残して落としちゃうのよ。夕方でも薄暗くなるのよね、ここ。

そんな夕暮れ時に何故か一人でパソコンに向かって作業してる女の人がいて、でも面識もないし、そんなに珍しい光景でもないじゃない？　だから声を掛けることもなく帰るんだけど、よくよく考えたらそんな娘見たこともないわけよ。しかも顔を思い出そうとするんだけど長い髪に顔が隠れてたからよく思い出せない。

次の日に出勤してそのデスクを見ても、日によってそれぞれが使うデスクって変わっちゃうから誰だかわからない。なんとなく気になって出勤記録を調べてみても……。うん。あの入り口付近の棚の中に置きっ放しになってるやつのことね。誰でも簡単に見れるからそう、出勤記録を見ても、その日残業してた人なんていないわけ。

実は、何年か前に仕事を苦に自殺をした女性がいて……、

みたいな話でしょ？　あなた達が聞いたのって。

あ、やっぱり。私も最初の頃にそれ聞かされたんだけどね、正直  
こんだけ人がいるわけだし、見たことない人が残業してるなんてこ  
と普通にあるのよね。

ま、会話のきつかけみたいな感じで色んな人がよくこの幽霊話を  
してるみたいよ。小学生じゃあるまいしって思うけど、そんな話し  
ながら「え〜？ こわ〜い」って言い合ってるのもなんか楽しかつ  
たりしない？

や〜ねえ。あなた達二人とも本気にしてたの、この話？

確かに。その幽霊が座ってるのは窓際の端のデスクらしいわね。

あー。あなた今日はちょうどそのデスクに座ってるんだ？ 自分で  
選べないもんね。朝、出勤した時に張り出してある座席表の通りに  
座るだけだし。あれ、誰が決めてるのかしらね？

そっか〜。だから余計に気味悪がってたんだ。

大丈夫よお。私、幽霊なんて見たことないし。

あつ。そろそろ昼休みが終わる時間だわ。

じゃ、私そろそろ仕事に戻るわね。

あれ？

どうかした？

昨日の昼休みに休憩室で会ったわよね？

もう仕事時間終わったけど、誰かと待ち合わせ？ ……ええ。私

は今から帰るところよ。

え？ 昨日あなたと一緒にいたもう一人の子？

今日は見てないわね。

へえ。仕事帰りに一緒にお茶に行く約束してたんだ？

あなたも今日はその子のこと見てないんなら、休みなんじゃない  
の？ 携帯に連絡は？ ……つかないんだ。

風邪でもひいて家で寝てるとか。

ああ。昨日私が言っただ出勤記録も見ただのね。

今日の欠勤者は一人もないの？ おかしいわね。あの出勤記録、あんまり適当に置いてあるけど記入漏れはないはずよ。ええ。もちろんあれとは別にそれぞれのタイムカードも押してるけど、あれ管理してる社員さん、なんか出勤記録書くのに情熱燃やしちゃってるからね。他の仕事の出来はともかく。欠勤や遅刻、早退者の記入が漏れてることはまずないんだけど。

そういえば。昨日、窓際のデスクに座ってるって言ってたわよね、あの子。幽霊のたたりとかあったりして。

……なんてね。冗談よお。

あ、今日はあなたがそのデスクに座ってたの？ 偶然ね。

何言ってるのよ。あなただって、幽霊なんて見てないでしょ？

だいたい、こんな普通のオフィスで怪談話ってねえ。たいして怖くないわよねえ。

まあ、でも……。

私、幽霊の話聞いた時から思ってたことがあるんだけど。

ちよつとしたことよ。

幽霊が出る、んじやなくてその窓際のデスクに座った人が消えちゃう……とかなら怖いかなって。その人がほんとにこの会社で仕事してたのかどうかも次の日になっちゃえばわからない。だって、もし出勤記録に残ってなければわざわざ調べたりしないもの。そりゃ、無断欠勤すれば会社から電話くらいはかかってくるだろうけど、繋がらなければ無理に捜したりしないわよ。代わりの人間なんてそれこそ山ほどいるし。一人いなくなったところで会社の業務にはなんの差し障りもないわけ。

あなただって、何日か連絡取れなかったら彼女のこと忘れていくわよ、きつと。携帯番号くらいしか知らないんでしょ？ 昨日知り合っただけだったみたいだし。

ほんとね、あの窓際のデスク、いつもは使われてないのよ。人数の関係で他に空き席がない時だけあそこが使われるの。多分、幽

霊の噂があつて気持ち悪がられるからなるべく避けてるんだろうな、  
って思つてたんだけどね。もしかしたら、あそこに座った人が消え  
てしまう、なんてことがあるのかも……。

人が一人消えてもこの職場じゃたいして気にもされないしね。

何が怖いって、幽霊が出るか出ないかなんてことより、自分も  
し急に消えてしまつても誰も気付かないんじゃないか……なんてい  
うこの状況が一番怖いわけ。とか言っちゃったりして。あはは。  
って、あれ？ 誰もいない。

さっきまでいたのに。

まあ、いいわ。

無駄話してたら遅くなつたちゃった。

私も早く帰ろつと。

## 電話ごしの声

もしもし？

うん。今、大丈夫。仕事終わったとこ。

まだ会社にいるけど？

まじで？ 今日、コンパあるの？ 行く行く。

何時から？ ああ、駅に集合でその時間なら余裕で行けるし。この前買ったワンピース着てくればよかった。もうちょっと早く誘ってくれば家に帰って着替える時間あったのにい。

ふーん。急に決まったんだ？ 別にいいけど。人数合わせに呼ばれただけでも、悪い悪くしたりしないからさ。そんなにフトコロ小さくないし、私。

それにしても会うの久しぶりじゃない？

ところでそっちはどうよ？

仕事辞めて、清々してんじゃないの？ あ。次の仕事探し中？ でも、あんたはいいわよね、実家暮らしで。私だって一人暮らしじゃなきゃとくにこんな仕事辞めてるっての。

そう。未だにあの使えない上司、会社に居座っちゃってるからね。あのハゲ、仕事できないくせに偉そうなのよね。あんた、この会社辞めて正解だわ。

もお最近、あの上司の顔見るだけでイラッとするんですけど。

私もそろそろ辞め時かしんない。

仕事つまんないし、いい男もないしい。

……ん？

あー。あんたも聞いたんだ。

加代子、死んじゃったこと。

二週間くらい前？ かな？

行ったわよ、葬式。

やっぱ、部署が一緒だったじゃん？



部長と一緒に、うちの部署で仲が良かった女子社員も何人か行った方がいいだろう、とか誰かが言い出しちゃって。でもあの子、友達いなかったでしょ。誰も自分が行くとか言わないからテキストに部長が指名してんの。

結構みじめじゃない？

ま、そんなこんなで私と後二人くらい女子社員が行ってきたわけ。なんか、全然仲良くなかったんですけど。仕事上でもほとんど付き合いなかったんですけど、的々な空気。

はあ？

イジメ？

何それ、意味わかんない。

やつだ。あんたばつかじゃないの？

あれ、イジメじゃないし。ちよつとからかっただけじゃん。あんたがここ辞める前よね。それ、一ヶ月以上も前だしさあ。

暇だったし。加代子に回すの分の書類だけ仕上げを遅くしたり、彼女のふでばこをゴミ箱に捨てたりしてたあれでしょ？

超くだらない？

あんなの気にする方がおかしいって。イジメんなら、今時、中学生だつてもつとマシなイジメ方すんじゃない？

だからあ、加代子も暇そうだったから、まあ、遊んであげた、…みたいな？

ちよつとしたことでしょ。

だいたい、最近は仕事忙しくてそんなことしてる場合じゃなかったし。

あんたも辞めちゃったしね。

そもそも、加代子って事故死だったんでしょ？　なんか詳しくは知らないけどさ。

イジメを苦にして自殺したのかも、なんて心配するような状況じゃないじゃん。

あんたって、意外につまんないこと気にするんだ。

ええ？ なに？ 総務の……誰？ そんな人知らないんだけど。  
加代子と仲が良かった人がいたの？ 総務部に？ へえ。……で、  
その人とあんたが面識あったんだ？ 初耳。

その人もコンパに誘ってみたけど都合が悪くて来れなかった……  
って、それでもいいんですけど。

あ。そうじゃなくて？ その人から加代子が死んだこと聞いたの  
ね。ああ、そう。

なによ。加代子がイジメられてることその人に打ち明けてたとか  
そういう話？ ……ではない。

加代子が？ 死ぬ前にその人に言ってたことが？ 「みんなが誘  
いに来る」？

何の話？ わけわかんなくてキモイんだけど。

いいんじゃないの。加代子、友達いなかったし。みんなが誘いに  
来る……って、友達でもできて自慢したかったとか？ さむっ！  
くだらない怪談よりよっぽどさむいし！

怯えてたみたい、って言われても私知らないしさあ。それなら、  
なおさらイジメとか関係なくない？

もういいじゃん。加代子のことは。

私だって、少しはかわいそうだなって思ってたんだから。全く親し  
くはなかったけど死んじやったとなるとね。同年代だしまだ若いの  
にな、とかはちらつと考えたりするって。

……でも。それより、今日のコンパよ。

長話してたら準備する時間減っちゃうじゃん。

今から、会社のロッカーに入れてるヘアアイロンで髪型整えるか  
ら。

はあ？

にぎやか？

ああ。そつちね。あんたの後ろから人の声するする。人ごみの中  
歩いてんの？

あ、やっぱり。時間つぶしに、駅のショッピング街歩いてるんだ

？ うん、確かににぎやかな感じ。

……え？

いや。そりゃ、会社は人が多いし、にぎやかかもしれないけどさ。私、今トイレの鏡の前で化粧直ししてるんだけど。

トイレには私以外は誰もいないし。

やめてよ。誰もいないってば。

加代子の声に似てる？ でも、他にもたくさん人がいるみたい？ あんたさ、私を怖がらせたいただけでしょ？ ばかみたい。そんなことあるわけないじゃん。どこをどう見たって、今トイレの中には私しかいないし。そんなくだらない話に騙されるほど、私頭悪くないんですけど。

もう。いい加減にしてよお。

「こつちの方が楽しいよ」？ 「早く来て」？ 声が近づいてくる？

逃げた方がいい……って言われても。

私には何にも聞こえないってば！

なによ！？ どこに逃げるのよ！？ 何から逃げろっていうのよ！？

ふざけるのも大概にしないと、私だって怒るよ！？

声！？ 真後ろ！？ 「捕まえた」！？

わかんないってば！ 何にもいなっ……………

## 停止エレベーター

管理会社の人、すぐに来てくれそうですね。

それにしたって、急にエレベーターが止まっちゃったら驚きますよねえ。

あなただって、『非常』のボタン押したのなんてはじめてでしょう。

そりゃそうですね。

まあ、エレベーターはこれ以外にも二機ありますからね。……とは言え人や荷物の出入りも多いですし、早くこのエレベーターも動かさないと。

……いえいえ。こちらこそ、一人きりでいるよりは他に話し相手がいいた方が良いでしょう。

え？ あー。そうですね。一緒に閉じ込められたのが若い女性とかだったら緊張しちゃいますよね。僕で良かった、ですか。あはは。光栄です。

ところで、持っておられるその花束は……？

やっぱり。ちょうど今日が最終出勤日だったんですね。部下の方たちからのプレゼントってわけですか。

退職の日にこんな事態になるなんて、ねえ。

ははあ。いい思い出、ですか。そうですね。

今日、ここでお話できなかったらあなたと会話することもなかったでしょうし。何事もご縁ですね。

実は僕、あなたのことがよく見かけますよ。やっぱり、エレベーターの中で。

そうなんですか？ あなたも僕のこと見かけたことありますか。毎日出勤しているとそれなりに顔だけは見たことある人って増えていきますよねえ。

同じ会社の中とは言え部署ごとにフロアが違うから、部署が違う

とほとんど接する機会ないですし。でも出勤時間とかが一緒だとお馴染みのメンバーが一緒のエレベーターに乗ってたりするんですよ。

しゃべったことなくてもいつも見かける人だと、変な話、ちょっと愛着わいたりしませんか？

あ。わかります？ 嬉しいなあ。

仕事したくない日とかもね、あるじゃないですか？ そんな時にいつもの人がいつもの時間に出勤してるのを見かけると、ああ、この人も頑張ってるんだろうな、とか勝手に想像してみたりしてね。逆に自分が機嫌が良い日に、相手がなんだか落ち込んでる感じだったら心配になったりして。

まあ、結局は全部想像なんでその人が実際にどう思ってるかなんて確かめようがないんですけど。

ほんとですか？ あなたもそんな風に思ったことありますか。いや。僕だけじゃないってわかっただけで嬉しいですよ。

それにしても、おじさん二人でこんな話をしてるなんて、傍からみたらおかしいですよ。

あはは、確かに。やっぱり相手が女性だったら、こんな話してたらストーリーカーみたいに思われちゃいますよね。セクハラだ、なんて言われたらたまらないですよ。

……えっと。まだ時間かかるのかもしれないね。エレベーターが動くまで。

心配になってきましたか？ 大丈夫ですよ。エレベーターが落下することなんてまずないですから。

ああ。ありましたねえ。社員が一人亡くなったエレベーター事故。もう三十年くらい前の話でしょう？ そんなの覚えてるの、古株の社員だけです。

あれから付け替え工事も何回ありましたしね。もう少ししたら動きますよ。

あ。……す、すみません。古株ってあんまりいい言葉じゃないで

すよね。なんか、つい……。

そ、そうですか。お気を悪くされたんじゃないならいいんですけど。

そんなことないですよ！ ただ、長く勤めただけでなんの役にも立ってないなんて。

いや、まあ……。若い子は色々言いますからねえ。パソコンとかも僕らなんかよりよっぽどちゃっちゃと使いこなしてるんでしょうし。

それでもね、長年、同じこの会社で今までの移り変わりをしているからこそ、できる仕事だってあると思うんですよ。

それに、毎日ちゃんと来て、いつもの通り仕事して……ちょっとしたこと積み重ねかもしれないけど、それだけすごいことですよ。

僕ね、会社ってこんな大きい箱の中に色々な人がいて、みんながそれぞれに頑張ったり悩みを抱えたり、それを乗り越えたり……そういうの、見るの好きなんですよ。

そりゃもちろん起業したり、なんらかの才能で自分の力だけで生きてる人はカッコいいですけどね。でも、それだけがかっこいいわけじゃないと思うんですよ。

実を言うと、あなたがエレベーターに乗り込んできたときに花束持ってたのを見て、今日で退職されるんだなってわかって、最後に少しだけお話したいと思ってます。

長く勤めただけ、なんておっしゃいますけど、その長い間この会社を支えてきたんですから。

ええ？ 神経すり減らされただけ、ですか？ ははっ。そうかしれませんかえ。

大変で、嫌なことの方が多いですもんね。

……でも、いいんじゃないですか？

そうやって、少しは楽しかったかな、って言えば。

未練がましくなんてないですよ。会社を辞めるのは寂しいと思い

ますよ。愛着があるほどね。

あ！

エレベーター、動きましたよっ！

よかったですねえ。

そうだ。

言い忘れるところでした。

お仕事、長い間お疲れ様でした。

やっと、一階に到着しましたねえ。ドアも問題なく開きましたよ。  
え？

ああ。僕は降りないですよ。降りれないんです。

三十年前、ここで死んでから、ずっとここが僕の居場所です。

僕はこれからもここで色んな人達を見続けたいと思います。

……いえ。それはこちらのセリフですよ。

ありがとうございます。

では、お気をつけて。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9187j/>

---

ちょっとしたこと

2010年10月8日15時53分発行